

公益財団法人8020推進財団

平成29年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：歯科医療従事者向けの視覚障害者対応ガイドブックの出版

2. 申請者名：中村譲治

3. 実施組織：NPO 法人ウェルビーイング

4. 事業の概要：

我が国における視覚障害者数は164万人、中でも矯正器具を使用しても視力0.05以上、0.3未満のロービジョン者は145万人で全体の約9割を占めている。超高齢化社会に伴い緑内障・糖尿病網膜症などにより視覚障害者は増加している。視覚障害者は外出や歯科医療機関受診が困難で、口腔内状況の悪化からQOLや全身の健康が低下しやすい。本事業では、歯科医療従事者が実際の診療場面で活用できる視覚障害の基礎知識や見え方に合わせた具体的な対応法などが満載した本を作成・配布し、歯科医療従事者の視覚障害者への理解を深め、視覚障害者が安心して歯科医院に通える環境をつくることを目的とする。その結果、視覚障害者が歯科医院に定期的に通うことができ、口腔内が健全に保たれ、8020を達成できると考えている。

5. 事業の内容：

平成27年から国立福岡視力障害センターの協力の元を実施している①歯科医療従事者による視覚障害体験キットにより視野狭窄、中心暗転、白濁を体験し、症状ごとの見え方や困りごとをまとめ整理、②視覚障害者へのインタビュー及び検診結果で収集した情報をもとに、ガイドブックを作成した。具体的には、編集会議を招集し、歯科医療従事者、視力障害の専門家、NPO職員が視力障害シュミレーションゴーグルを用いた歯科医院での見え方の模擬体験の結果、視覚障害者の見え方調査、FGIで得た視覚障害者の口腔内の困りごとや歯科医院受診時の困りごとへの対応を話し合い、ガイドブックの執筆をすすめた。執筆進行に合わせて複数回の編集会議を招集し、作成途中には、視覚障害者、歯科医療従事者にガイドブック案について意見交換を聞き、視覚障害者の立場からは歯科医院に対する思い（不安、要望など）、口腔ケアでの疑問や困りごとにあったガイドブックになっているか、歯科医療従事者は実際に診療室で活用できる内容になっているかを精査し、その意見をもとにガイドブックを改編した。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

今回、歯科医療従事者、視覚障害の専門家、当事者、NPO職員、出版関係者などいろいろな立場の人がガイドブックづくり参画することにより、生活のしづらさに視点を置いた当事者に寄り添った非常に画期的なサポートブックが完成した。今後は、このガイドブックを広く普及し、多くの方に利用してもらえるように、関係機関への配布、学会発表、講演会などを行う必要があると考えている。

